

基本的な考え方

ミウラグループは「ミウラグループ企業行動規範」に則って行動し、品質マネジメント宣言を実行することで、お客様に役立つ技術に磨きをかけ、製品やサービスの品質を高めることによりお客様の信頼にお応えしています。

品質マネジメント

体制と責任・マネジメントレビュー

品質保証活動は、QMS総括責任者（社長執行役員）が指名した事業統括責任者（取締役以上）が統括しています。事業統括責任者から任命された品質管理責任者は、品質マネジメントシステム（QMS）に則り、お客様のご要望に対する認識を高め、品質保証活動を推進しています。

マネジメントレビューについても年1回実施し、品質マネジメントシステムのパフォーマンスについてレビューしています。

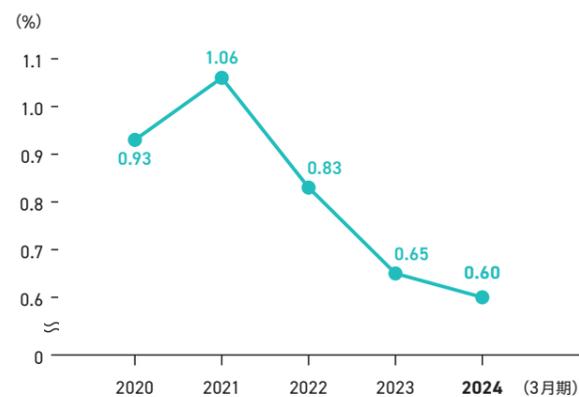
品質向上会議

品質向上会議を月1回開催しています。議題は主として、製品クレームの改善、品質向上案件の進捗状況、重大事故発生に関する報告とその対策および再発防止について検討するとともに、部門間において情報交換・共有を行っています。

製品不適合などへの対応

クレーム費用内部売上高比率や緊急修理発生率をKPIとして、部門ごとにモニタリングを実施し、中長期的に製品不適合の改善やクレーム費用削減に努めています。製品・サービスに起因する重大な事故については、重大事故処理要領に則り、早期対応・再発防止を図っています。

■ クレーム費用内部売上高比率



グローバルな品質管理への取り組み

ミウラグループでは、2022年度より海外QMS構築活動を1歩進め、機能毎にチェックリストに基づく自己チェックを実施しています。この活動により各工場の品質異常件数も減少傾向が続いています。また、新製品製造時の製品の組み立て、品質管理方法について、日本同様の運用が定着できるよう、現地駐在員が中心となって支援をしています。そのほか、出来栄が品質に直結する溶接技術を競う「溶接コンクール」を実施し、国内外のミウラグループから溶接技術者が参加することで、技術と品質への意識向上を図っています。

製品開発におけるリスクアセスメントの徹底

ミウラグループでは、製品の安全性を高めるためのリスクアセスメントを実施しています。設計・開発プロセスの早い段階から、当社の取り扱う製品のライフサイクル全般で発生すると予想される危険事象から、人および財産を保護するための保護方策を検討し、最終的に製品に反映することを目的としています。

リスクアセスメントは、社内研修にて重要性を認識し、実施方法の理解のうえ、具体的な実施の習得まで体系的に学べる体制となっています。

品質に関する従業員教育の実施

2024年3月期は新入社員全員を対象とした品質保証の基礎に関する研修（106名受講）のほか、製品のリスクアセスメントを適正に行うことができるよう、主に技術者を対象としたリスクアセスメント研修（延べ84名受講）を実施しました。また、ISO9001内部監査員の育成を目的とした研修では、28名が受講しました。

基本的な考え方

ミウラグループは、お取引先との連携強化と責任あるサプライチェーンマネジメントの構築を重要な課題と考えています。優れた供給資材をより良い製品づくりに活かすとともに、お取引先との相互信頼、法令遵守、環境保全、人権尊重、腐敗防止等の取り組みを推進することで、持続可能な社会の実現に向けて、お取引先と当社の持続的な成長を目指していきます。

サステナブル調達と推進体制

サステナブル調達

当社は、サプライヤーとの取引基本契約書に、「廃棄物削減、省資源、省エネ、リサイクルを推進し、地球環境に与える負荷の軽減に努める」旨を定めています。また、紛争鉱物の使用禁止に努める内容等11項目を含む「ミウラグループサステナブル調達ガイドライン」を2021年8月に制定し、サプライヤーへ周知し、ウェブサイトで公開しています。

グリーン調達

当社は、環境に配慮した製品を社会へ提供する目的として、「ミウラグループグリーン調達ガイドライン」を2017年10月に制定し、製品に含有される有害化学物質調査に取り組んでいます。現在、自社ボイラ薬品についてはガイドラインに基づいた保証体制を整えており、今後は調査対象範囲を拡大するため、グリーン調達調査を推進しています。また、サプライヤー向けにアンケートを実施し、環境への取り組みや遵守状況の確認も行っています。

調達におけるBCPの取り組み

2024年3月期は、海外サプライヤーのリスク管理やBCP基準における対象機器部品の再検討を行いました。来期には重要機能部品の安全在庫の見直し検討を実施します。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、サプライヤーが受注残を大量に抱えていたことで部品供給の納期遅延がみられましたが、情報共有による製造在庫と販売在庫の最適な調整で、製造・フィールドエンジニア活動の停滞はありませんでした。

2025年3月期は以下について取り組みます。

1. ミウラグリーンシフト（有害化学物質ゼロ宣言）に向けた部品調達、生産取り組みの推進継続
2. 紛争鉱物の不使用に向けた取り組み

サプライヤーと連携した品質向上への取り組み

ミウラグループでは、生産統括本部を中心に設計・グループ製造会社・資材調達および協力会社の4部門で、常に品質向上に向けた四位一体改革を推進し、高品質・低コスト・短納期を実現する生産体制の構築を目指しています。

経営者会議

「TS（トップサプライヤー）優良製造会社認定制度」を2009年3月期より開始し、現在、TS8社と理念を共有し、QCDF[※]の追求と、長年に亘る相互信頼・WIN-WINの関係を構築しています。さらに、当社、社長執行役員をはじめとした経営層とTS8社の経営者が参加する経営者会議を年1回開催し、品質向上・納期対応・コストダウンについて各社の目標、実績、自主点検結果を共有し、改善に向けた意見交換をしています。

※ QCDF: Quality (品質)、Cost (コスト)、Delivery (納期)、Flexibility (適応性)

PC交流会 (Process Change for the better)

当社の設計・調達とTS8社および主要協力会社の担当者による製造方法の改善、設計の品質向上を図る活動です。本会を通して改善し、削減できた加工時間は、電力消費量に換算され、部品製作におけるCO₂排出量の抑制に役立っています。その成果は経営者層に会議を通して報告をしています。

2024年3月期は、TS8社へ、Scope3の重要性を説明すると共に、来期から活動方針へ環境に関する項目を加え、各社でエネルギー使用量原単位等をモニタリングし、削減目標とする具体的な方針を決定しました。

「パートナーシップ構築宣言」への登録

当社は、2021年7月、「パートナーシップ構築宣言」に登録し、サプライヤーとの連携・共存共栄を進め、全体的なサプライチェーンの価値向上と、取引習慣の遵守・関係構築に取り組んでいます。

<https://www.biz-partnership.jp/index.html>